

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	佐賀県立武雄高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・学力の向上については、概ね目標を達成することができた。次年度は各教科の内容が現代社会とどのようにつながっているのか主体的に意識できるように探究活動の充実を図ってきたい。また、教職員の指導力の向上を図り、各教科や総合的な探究の時間等において、生徒を主体とした学びの支援も充実させたい。 ・心の教育、健康・体力づくりについては、概ね目標を達成することができた。次年度も自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実を図ってきたい。また、SCの活用や教育相談体制の充実を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができるよう支援してきたい。 ・課程改善、教職員の働き方改革については、概ね目標を達成することができた。次年度も目標達成に向け、より効果的な取組や学校行事の精選等を検討し、課程改善、働き方改革を推進してきたい。 ・唯一無二の誇り高き学校づくりについては、武雄市とのまちづくり参画事業や探究活動を通した研究発表など、実践的・体験的な活動を行うことができた。今年度は学校ホームページを充実させ、県内外への情報発信と広報活動に努めたが、入学志願者の増加には至っていない。引き続き、次年度の課題としたい。
------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○ 西部地区唯一の県立中高一貫教育校として、6年間を見据えたカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。 ○ 自治体との連携等による探究を中核とした学びを一層推進し、これからの時代を生き抜く資質・能力を涵養し、地域や国際社会が抱える課題の解決に対して主体的に行動できる人材を育成する。
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー ① 進路希望の達成に向け、基本的な生活習慣と学習習慣を身につけ、学校生活を大切にし、真実に学ぶ意欲を継続的に持とうとする生徒を求めます。 ② 質の高い文武両道の実現という本校の伝統を大切に、学業及び課外活動に対し主体的・積極的に取り組み、自己の向上を図ろうとする生徒を求めます。 ③ 社会や他者との関係を考えながら、目標を持って、自分の置業で考え、自分の判断に責任を持ち、主体的に行動し、課題に内省しようとする人を求めます。 ④ 学校生活の様々な場面で集団活動の活性化に寄与しようとする生徒を求めます。	カリキュラム・ポリシー ① 問題を発見し解決しようとし探究活動する過程において自分の考えを形成し、協働しながら新しい意味や価値を創造する「探究」を中核とした6年間の教育活動を推進します。 ② 各教科や総合的な探究の時間、ロングホームルーム、様々な課外活動においてたくさんTry&Errorを体験しながらしなやかで逞しい自己調整力・自己回復力を養います。 ③ 学問的な面白さに誘う学習過程、習得した知識を活用し考えさせる学習過程、「なぜ(Why)」と「どのように(How)」を大切にした学習過程を実践します。	グラデュエーション・ポリシー ① 「確かな知識」、「幅広い常識」、「温かな良識」、「鋭い見識」に基づいて自分なりのものの見方をもち行動できる力を育成します。 ② 高い志を持ち、先を見とおしながら主体的・自主的に何でも挑戦し、その取組に対して自分の置業で振り返ることができる力を育成します。 ③ 自分の個性や強みを生かすとともに、多様な考えを尊重しながら、他者と協働して課題解決に向けて取り組むことができる力を育成します。
-------------	--	--	---

4 本年度の重点目標	① 生徒の自主性・主体性を育む教育活動を推進する。 ア 生徒主体的教育活動(学校行事・部活動等)を推進する。 イ 各教科等において生徒指導の3権限(自己決定の場・自己存在感・共感的な人間関係)を踏まえた授業を実施する。 ② 探究する力の育成を中核に据えた教育活動を推進する。 ア 総合的な探究の時間等を中心として探究の基本スタイルを習得させる。 イ 外部機関等と連携した取組への積極的参加を促し探究力を向上させる。 ③ 全教職員による学校課題の解決に向けた共通理解と共通実践を推進する。 ア 大学入試共通テストや個別大学試験に対応できる授業力を高めるための授業研究を推進する。 イ 広報活動への意識を持ち、当事者として中学生に選ばれる学校教育活動に協働して取り組む。
------------	---

重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒の探究力養成	○各教科や総合的な探究の時間等における探究活動に合う学力の伸長 ・地域や国際社会に解決したい問題があると思う生徒の割合…70%以上 ・探究活動の基本的なスタイルを理解していると思う生徒の割合…70%以上	・各教科の学習内容が現代社会とどのようにつながっているのか主体的に意識できるよう指導改善を図る。 ・探究活動に関する講義や実践をとおして探究の基本型(課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現)の理解と習得を図る。	A	・地域や国際社会に解決したい問題があると思う生徒の割合:89% ・探究活動の基本的なスタイルを理解していると思う生徒の割合:85%	A	・地域や国際社会に解決したい問題があると思う生徒の割合89%、探究活動の基本的なスタイルを理解していると思う生徒の割合82%と目標値の達成ができた。 ・「探究Ⅱ」や校外活動への熱心な取り組みからも、地域や国際社会の問題に対する関心は高い。教科との連携を強めていくことを今後の課題とする。	A	・市役所と連携した探究活動の生徒数が増加したが、生徒の探究活動に対する意識が前向きに変化してきたと思われる。成果発表については、他の高校の事例と比較してもまだまだ発展途中であり、教科との連携も含め、今後の取り組みに期待したい。 ・地域課題等への関心の高さは、探究活動の実践や基本的なスタイルの理解、習得への取組の成果を感じた。	教務・進路・企画 研修
	○教職員の指導力向上	○生徒を主体とした適切な指導の実施状況 ・各教科等の授業において探究的な活動を仕組むことができた教員の割合…80%以上 ・総合的な探究の時間等において生徒を主体とした学びの支援ができた教員の割合…70%以上	・各教科等の時間において定期的に探究的な活動を配置することにより基礎学力の必要性を実感させる。 ・総合的な探究の時間等において生徒の問題意識に寄り添いながらコーディネーターとして伴走的な支援を継続する。	B	・各教科等の授業において探究的な活動を仕組むことができた教員の割合:69% ・総合的な探究の時間等において生徒を主体とした学びの支援ができた教員の割合:93%	A	・各教科等の授業において探究的な活動を仕組むことができた教員の割合が69%、総合的な探究の時間等において生徒を主体とした学びの支援ができた教員の割合が93%とほぼ目標を達成できた。今年度は探究活動ではフィールドワークの支援なども調整できた。授業力向上のため中高で授業研修会を行っており、来年度以降も充実した研修を継続してきたい。	A	・教科連携・地域協働に関して、生徒の学びに関する意欲をまだ引き出せるように思える。運営協議会も、探究活動には全面的に協力する。 ・数値目標と項目について、いずれも実施結果が目標を達成しており、かつ令和5年度より達成率が上昇したことは評価できる。	教務・進路・企画 研修
	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○ホームルーム活動や校外活動・校外活動への参加状況 ・校外活動に参加した1・2年生の割合…50%以上 ・人権教育の全体教育に基づいて授業(人権・情報モラル)を行った教員の割合…80%以上	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定してクラス討論を行う。 ・校外活動の体験活動の意義を明確にし、関連する情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。	B	・校外活動に参加した1・2年生の割合:38% ・人権教育の全体教育に基づいて授業(人権・情報モラル)を行った教員の割合:93%	B	・人権教育の全体教育に基づいて授業(人権・情報モラル)を行った教員の割合が93%で目標を達成できた。アンケートでは校外活動に参加した12年生の割合が38%と目標値を下回ったが、全国インターハイや国民スポーツ大会への補助員として多数参加しており、12年生の50%以上の生徒が校外活動に参加している。	A	・校内での活動だけでなく、積極的な校外活動への参加により様々な人との関わりを持つことで、広い視野と豊かな心を身に付けることができるので、今後も探究力の養成に努めていきたい。 ・校外活動への参加の38%は、活動そのものを知らないのか、周知が足りないのか、意欲が低いのか、それぞれの問題点によって対応すべき課題が異なるので、課題を明確にしてほしい。	教務・企画 研修部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ見逃しゼロに向けた取り組み ・いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事象対応等)について組織的対応ができていないと回答した教員の割合…80%以上	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団の一体感を持てる取組を工夫し、共感の風土を醸成する。 ・いじめはどの学級でも、どの生徒にも起こり得るという視点を常にもち、日々の観察、学校生活アンケートの活用、面談等により、いじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時組織として迅速かつ厳正に対応する。 ・心の教育を通して思いやりの心を育成する。	B	・いじめ防止等について組織的対応ができていないと回答した教員の割合:93% ・いじめアンケートを6月と11月に行い、気になる生徒については担任、学年主任で面談を行い、内容の把握に努めた。その後、校内いじめ対策委員会を開催し、今後の対応等について協議した。現時点でのいじめの認知事案は11件となっている。	B	・いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事象対応等)について組織的対応ができていないと回答した教員の割合は93%であったが、SNS等の利用に関しての対応に苦慮している事案が多い。 ・いじめアンケートを6月と11月に行い、気になる生徒については担任、学年主任で面談を行い、内容の把握に努めた。その後、校内いじめ対策委員会を開催し、今後の対応等について協議した。今年度のいじめの認知事案は13件となっている。	B	・SNSの事案を含めて、教職員がどこまでいじめの対応に関わるのか、生徒が自らいじめに関して考える機会を組織的に構築する必要があるのではないかと思われる。 ・安全・安心な学校生活のためのアンケート等によるいじめの未然防止や事象の早期把握と対応に加え、生徒が主体的に解決方法を見出せる力を身に付けることができないうかが考えてみる必要もあると感じた。	生徒指導部
●健康・体づくり	○教育相談体制の充実	○SCの積極的活用等、教育相談の充実 ・年間30日以上欠席者数各学年5名以下 ・生徒が授業に行けるようになることを目標とした支援と配慮の充実	・SCの活用や教育相談、特別支援教育を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができるよう方策を図る。 ・生徒の困り感に寄り添いながら教室に入れない生徒の支援を行う。	B	・11月で30日以上欠席者は各学年5名以下である。 ・スクールカウンセラーの利用生徒が多く、それ以外でも学年や教育相談でも積極的にかかわっている状況である。	B	・30日以上欠席者は増加しており目標達成はできていない。教育相談体制を充実させ、不登校問題に取り組んでいきたい。 ・今年度はスクールカウンセラーの利用できる日数を増やし、不安などを抱えている生徒への対応を充実させた。毎月1回の職員会議で生徒情報の共有により、欠席の多い生徒、授業に出ることが難しい生徒に対しスクールカウンセラー支援を図った。	B	・不登校が増加傾向のなかで、SCへの連携増加だけでその状況改善するのには厳しいと思われる。基本的な学校生活、学習生活への向き合い方、考え方を、教員・生徒がそれぞれの立場で見直したり、学校外での生徒の居場所作り、連携を進めてほしいのではないかと、今後SCの積極的な活用と充実方へ相談しやすい体制づくりをお願いしたい。	保健厚生部
	●望ましい生活習慣の形成	○健康診断を有効活用し、健康意識の向上を図る。 ・特に歯科・眼科の受診率…35%以上 ○健康によりい食事をしている生徒を90%以上にする。	・健康診断後の治療勧告書や、保健だより、食育コーナー等の情報を発信する。 ・保健だよりをとおして、食事・運動・睡眠は健康のために大切であるという意識の向上を図る。 ・部活動に加入させ、心身の健全な発達を促す。 ・学校全体でゴミゼロ運動(ゴミ箱の不設置・ゴミの持ち帰り)に取り組み、環境保全の意識を育てる。	A	・健康診断の結果、受診勧告を配布するとともに、要精密になった生徒などには個別指導を行い受診を促した。また、classにて食育コーナーを入れた保健だよりを配信した。 ・健康によりい食事をしている生徒は92.6%であった。	A	・健康診断の結果、受診勧告を配布するとともに、要精密になった生徒などには個別指導を行い受診を促した。また、classにて食育コーナーを入れた保健だよりを配信した。 ・健康によりい食事をしている生徒は92.6%であった。健康によりい食事をしている生徒の目標は達成できた。	A	・自己管理できることが大切。 ・活動と休みのバランスを取りながら、今後も健康的な生活習慣の形成につなげていきたい。	保健厚生部
	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故0(ゼロ) ○規則の遵守、防犯・交通安全に関する講演会を実施し意識を高める。 ○加害としての交通事故件数0(ゼロ)	・日々ホームルームや集会等を利用して、道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等について講演等を実施する。 ・高校生としてふさわしい身なりを意識づけ、生活上のルールの遵守に努める。 ・警察や県生徒指導連盟からの情報提供を参考にプリント・ポスター等で防犯意識を高める。	B	・集会やHRで自転車マナーについて話をしたり、警察と連携し街頭指導などを行った。交通事故については、自動車と自転車の接触事故が1件、歩行者と自転車の接触事故が1件起きている。 ・防犯意識についても、声掛け・痴漢などの事案情報をも都度提供し、警察と連携しながら注意喚起に努めている。	B	・交通安全講演会やHR等で自転車マナーについて話をしたり、警察と連携し街頭指導などを行っているが、自動車と自転車の接触事故が2件、歩行者と自転車の接触事故が1件起きている。 ・防犯意識についても、声掛け・痴漢などの事案情報をも都度提供し、警察と連携しながら注意喚起に努めている。	B	・教職員の管理から、生徒の自主管理へ移行を検討していくことが、教員への負担軽減と、生徒の主体的・当事者意識を高めることにつながると思う。 ・学校の安全教育や警察との連携のほか、地域からの情報提供(校外での交通マナーなど)による実情把握と指導をお願いしたい。(例えば、生徒が学習のために利用する学校以外の施設での利用マナーなどの聞き取りなど)	生徒指導部
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守	・定時退勤日を週に1日、学校閉庁日を長期休業中に設定し、年休や休暇取得を奨励する。 ・部活動休業日の設定及び顧問が交代で部活動指導を行うことにより、時間外勤務の削減を図る。 ・IoTを活用し、業務の効率化に向けた体制づくりを行う。	C	・全国インターハイ役員、国民スポーツ大会役員や競技によっては全廃スポーツの役員まで長期にわたる出張で、休暇の取得が取り難い状況であった。 ・IoTを活用した業務の効率化を図ったが、職員の意識調査では大幅な改善には至らなかった。	C	・全国インターハイや国民スポーツ大会の影響で高校生の大会日程が大きく変更になったり、補助員で土日に参加しなければならないなど、週2日以上部活動休業日を実施できなかった。 ・夏季休業中に閉庁日を6日間設定し、週休日の大会役員の負担の軽減の取得を優先したため、年次休暇取得日数は平均4日(昨年度11.0日)より減少した。 ・時間外在校等時間は月平均42時間28分(昨年度40時間41分)より増加した。次年度は、行事の見直しや業務の効率化、部活動時間など、働き方改革をより推進しなければならない。	B	・Hや国スポはイレギュラー事案として取り扱うべきである。行事の見直しは、生徒と一緒に積極的に取り組んでほしい。 ・休休や休暇が取得しやすい職場環境づくりにも今後努めていきたい。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会を年に1回以上実施する。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有の場を設ける。	B	・職員研修会は12月に実施予定である。 ・ケース会議を行い、今後「個別の指導計画」作成に向けて、情報共有している。	A	・12月に職員研修会を実施し、学習面からの支援、進路指導としての支援なども誰もが学びやすい環境づくりについての職員の意識向上を図ることができた。ケース会議等も行い、情報共有を図ること学校全体として対応できるようにしている。	A	・個別の特性によって関わり方が変わるので、随時研修を重ねてほしい。 ・職員研修の実施が、学びやすい環境づくりへの意識向上と学校全体での情報共有による対応につながっていることは評価できる。	保健厚生部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を78%以上、教職員の割合を85%以上	・武雄市市民協働課のコーディネーターと連携し、まちづくり事業を進めさせて地域との協働活動に取り組み、実践的な活動を通して地域課題の解決に貢献し、その成果を発表する。 ・上記の成果について、生徒・職員にアンケート調査を行い、改善を図る。	B	・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合:68% 教職員の割合:97%	B	・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合(68%)は目標に届かなかったが 教職員の割合(97%)は達成できた。 ・まちづくり活動等の地域との協働活動は武雄市市民協働課との連携もきっかけででき、今年度はフィールドワークという新たな取組も達成でき、学校の魅力として発信できている。 ・探究活動を行う生徒たちの達成感が足りていないことも考えられる。	B	・中学生に勧められる生徒の割合を重視したい。生徒が自発的に勧めることができる学校作りが大切。 ・中学生に勧めることができる生徒の割合が目標に達成できなかった要因を精査し、目標達成に向けて今後も情報発信等の取組を進めていきたい。	企画研修部
	○広報活動の充実と志願者の増加	○体験入学の参加者を募集定員の180%以上 ○第2回進路希望調査での志願倍率…1.1倍以上	・「武雄高校だより」を定期的に発行するなど、ホームページの充実を図る。	A	・体験入学参加者は定員の208%、第2回進路希望調査志願倍率1.50倍と目標を大きく上回った。今後もホームページの更新など広報を継続。	A	・体験入学参加者は定員の208%、第2回の進路希望調査では目標とする志願倍率1.5倍と大きく上回った。	A	・結果として志願者数が増えたのは良かった。継続性を注視。 ・「武雄高校だより」の発行などによる情報発信が志願倍率上昇などの成果につながり、とてもよかったと思う。	教務部
	○志を高める教育	○社会や他者との関係を考えながら、目標を持って、自分の判断に責任を持ち、主体的に行動できた生徒の割合…70%以上	・志教育講演会、進路講演会、探究Ⅱの共働学習をととして社会と自分との関係について考え、主体的な進路選択、将来設計につなげることができるようにしている。自主的な学習や探究活動への取組ができる生徒の割合(78%)も目標値も達成しており、次年度さらに割合を高めたいと思う。	A	・自主的な学習や探究活動への取組ができる生徒の割合:78%	A	・志教育講演会、進路講演会、探究Ⅱの共働学習をととして社会と自分との関係について考え、主体的な進路選択、将来設計につなげることができるようにしている。自主的な学習や探究活動への取組ができる生徒の割合(78%)も目標値も達成しており、次年度さらに割合を高めたいと思う。	A	・生徒にとって「志」にはなにか?校外活動や探究の深め方とリンクするようしてほしい。 ・各講演会や探究活動などの取組により、主体的な進路選択や将来設計に繋げることができていることは大変評価できる。	進路・企画 研修部
●…黒共通 ○…学校独自 ●…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり										

6 総合評価・ 次年度への展望	・探究活動に対する意識が前向きに変化しており、目標も達成できている。今後は他校の事例発表などを参考にして、フィールドワークや教科との連携を充実し研究内容をより深掘りさせるとともに研究成果の発表の場を充実させ生徒の成長につなげたい。 ・学校での安全教育や警察との連携を充実させ、地域からの情報提供(校外での交通マナーなど)による実情把握を通して地域に根ざした学校づくりを進めたい。 ・広報活動の充実が志願者増加につながったと思われる。今後も教育活動を充実させるとともに広報活動にもさらに力を入れていきたい。 ・今年度も心の教育、健康・体力づくりについては、概ね目標を達成することができた。自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実を図ってきたい。また、さらにSCの利用時間数も増やすことで活用や教育相談体制の充実を図り、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう支援する。 ・業務改善、教職員の働き方改革については、目標達成ができなかった。より効果的な取組や学校行事の精選等だけでは困難であるため、稼業日以外の業務に対して働き方の意識改革を推進してきたい。
--------------------	---